

(総括評価表4)

世界とつながる新たな熊本の創造 ～世界に挑み、世界を拓く～

1 実現に向けた施策

施策12 空港・港の機能向上によるアジアに開く
ゲートウェイ化

【具体的な施策】

- ① 「大空港構想NextStage」に基づく阿蘇くまもと空港の
復旧・機能拡充
- ② 熊本港・八代港の海外展開拠点化

施策13 世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出

【具体的な施策】

- ① 「KUMAMOTOブランド」の世界展開
- ② 世界とつながる国際人材の育成・活躍支援

2 重要業績評価指標 (KPI) の動向・達成見込み

* 戦略期間の終了時点における達成見込み
 ・「★」…H30年度末までに目標値を達成している指標
 ・「☆」…R1年度中に目標値を達成できる見込みの指標(災害復旧事業等の指標のうち、他律的な要因による復旧できないものを除くと、4カ年戦略期間中に目標値を達成する見込みのものを含む。)
 ・「☞」…更なる努力が必要な指標のうち、戦略策定時と比較して上向きとなる見込みのもの

評価指標	戦略策定時 (H27)	H28実績値 (H29評価)	H29実績値 (H30評価)	H30実績値 (R1評価)	目標値 (R1)	戦略期間の 終了時点における 達成見込み*
施策12 空港・港の機能向上によるアジアに開くゲートウェイ化						
① 阿蘇くまもと空港利用者数 【施策5-①と同一】	323万人/年	298	334	346	380万人/年	☞
クルーズ船寄港数	12隻/年	12	66	30	70隻/年	☞
② 熊本港国際コンテナ貨物取扱量	8,889TEU/年	7,386	10,147	11,458	16,000TEU/年	☞
八代港国際コンテナ貨物取扱量	18,151TEU/年	18,980	20,305	22,249	28,000TEU/年	☞
施策13 世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出						
① 海外(国別)に輸出及び進出を行った県内企業数	495社 (H26)	573	654	759	750社	☆
HACCP導入施設数	27施設	40	63	119	100施設	★
海外高校への留学生数	12人/年	13	12	18	20人/年	
海外大学への進学者数	18人/年	12	7	19	30人/年	☞
官民連携による海外研修・留学生数	47人/年	43	42	54	50人/年	☆
② 留学生(高等教育機関)の受入数	735人/年	685	691	691	1,000人/年	
2020年東京オリンピック強化指定選手数	45人	47	29	31	20人以上/年 (R1) 40人程度/年 (~H28)	☆
2020年東京パラリンピック強化指定選手数	20人	16	13	9	8人以上/年 (R1) 16人程度/年 (~H28)	☆

3 平成30年度の主な成果・今後の取組みの方向性

平成30年度の主な成果

今後の取組みの方向性

【施策12】空港・港の機能向上によるアジアに開くゲートウェイ化

コンセッション方式導入による阿蘇くまもと空港の創造的復興について、公募手続において応募者に県の施策の方向性等を的確に伝え、優先交渉権者にMSJA・熊本コンソーシアムが選定された。

香港線の定期便化により、高雄線とソウル線と併せ、熊本地震で運休した国際線3路線が全て定期便として再開した。また、冬ダイヤにおいてソウル線の毎日運航が実現、さらに韓国・大邱線が新たに就航し、国際線利用者数は過去最高(20.7万人)を記録した。

空港へのアクセス改善について、鉄道整備案を最良と選定するとともに、鉄道整備に関する基本的方向性についてJR九州の同意を得た。また、空港ライナーの利用者は過去最高(11.3万人)を記録した。

八代港について、国、県及びロイヤルカリビアン社の3者によりクルーズ拠点基本計画を公表した。また、県が整備する大型バス等の駐車エリアの造成工事に着手した。物流機能の向上については、新コンテナターミナルの供用を開始し、既存ガントリークレーンを移設して代替性を確保した。

国際コンテナ貨物取扱量は、H29年と比較し、熊本港で13%、八代港で10%増加し、熊本港は2年連続、八代港は3年連続で過去最高を記録した。

新運営権者と協議を進め、役員派遣など県の空港運営への参画方法を決定するとともに、パートナーシップ協定の締結など連携体制を構築する。

外国人観光客等の増加を図るため、既存路線の利用促進や新規路線の就航・定期便化に取り組む。また、空港アクセス鉄道整備に向けた詳細な調査・検討を実施する。

八代港では、R2年4月の供用開始を目指し、世界最大(22万t)級のクルーズ船の受入れが可能となるよう、クルーズ船専用岸壁や駐車エリア、旅客ターミナル等の人流ゾーンの整備をR1年度中に完了する。

クルーズ船の経済効果を各地域に波及させるため、地元消費型旅行商品等の販売や、船食での県産品の使用の継続化を図る。

船会社に対する新たな助成制度により新規航路開設や既存航路の延伸・増便を図る。



阿蘇くまもと空港の新ターミナルビルのイメージ



香港線



八代港クルーズ拠点完成イメージ図

【施策13】世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出

県産品の販路拡大や観光PRのため、くまモンも活用し、中国、香港、台湾、ASEAN等においてプロモーションを実施するとともに、フランスで九州合同レセプションを開催した。また、ブランド価値向上のため、くまモンTVの配信を開始した。

国際スポーツ大会に向けて、女子ハンドボールアジア選手権を熊本で開催した。2019女子ハンドボール世界選手権大会を大成功させる会(全国)や2019国際スポーツ大会を盛り上げる会(熊本)といった応援組織が設立されるなど、民間においても大会の成功に向けた機運が高まった。

グローバル人材の育成について、海外チャレンジ塾等により生徒の海外大学への進学や留学に対する意識の醸成を図った。世界チャレンジ支援基金を活用し、高校生、大学生、若手芸術家等54名を海外に派遣した。

留学生等の修学・就職等について、大学コンソーシアム熊本による留学生誘致、外国人農業実習生等を対象とした熊本農業理解促進のための研修等を実施した。また、県内初の外国人介護福祉士が誕生した。

2018アジア大会やアジアパラ大会に強化指定選手が出場し、金メダル4個、銀メダル3個、銅メダル8個を獲得した。

くまモンも活用した県産品や観光のPR、県産品自体の価値向上等により、「KUMAMOTOブランド」の世界展開を推進する。全世界に向けたアニメ制作や、欧・米・豪への継続的プロモーションを行う。

国際スポーツ大会の成功に向け、更なる機運の醸成、おもてなしの充実とともに、県民挙げて観戦するよう取組みを強化する。また、レガシーとして、県民へのハンドボール・ラグビーの普及等を推進するとともに、情報発信等により熊本を旅行先として定着させる。併せて、選手等が熊本の文化に触れ合い県民と交流する機会を設けるなど、国際交流を促進する。

グローバル人材を育成するため、引き続き海外への進学や留学等を総合的に支援する。

県外の進学相談会でのPR等による留学生誘致や、外国人材の受入状況を踏まえた効果的な支援とともに、企業の担当者向けに外国人受入れに係る講習の実施、外国人の生活に係る一元的相談窓口の設置等により、受入環境の向上に取り組む。



くまモンの中国語正式名が「熊本熊(ヨバ ヌウ)」に変更



応援組織の発足(全国・熊本)



アジア選手権 おりひめJAPAN準優勝



フランス「JAPAN エキスポ」